

# 平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

甲斐市立敷島小学校

## ■この調査は・・・

義務教育の機会均等とその水準の向上のために、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析して教育施策の改善を図るとともに、一人ひとりの児童生徒の学習の課題を把握して指導改善につなげるために実施しました。本校の子どもたちの課題について共通理解を図り、学校・家庭・地域が一体となって学力・学習状況の改善に取り組めるよう、結果の概要をお伝えします。

## ■調査の結果は・・・

対象が小6と中3、教科も国語／算数・数学／理科に限られています。したがってここに示す結果は児童生徒の「学力の特定の一部」であることをご理解ください。（理科は、3年に1度の調査となります。）

## 1 調査結果について

### ■学力調査結果からみえる本校の子どもたちの姿

- ・国語、算数ともに「知識」をみるA問題の方が、「活用」の力をみるB問題よりも正答率が高いです。
- ・国語の平均正答率は、A問題では全国を上回り定着がみられます。「言語についての知識・理解・技能」では高い定着があり、普段の取組の成果が表れています。B問題では全国と同程度であり、定着がみられます。「書くこと」では目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことに課題がみられます。
- ・算数の平均正答率はA・B問題ともに全国を上回り、定着がみられます。B問題の「量と測定」では全国を上回り、高い定着を示しています。しかし、単位量当たりの大きさと棒グラフや帯グラフの読み取りに課題がみられます。
- ・理科の平均正答率は全国と同程度であり、一定の定着がみられます。B区分「生命」は全国平均正答率を下回り、課題が残ります。

### ■質問紙調査からみえる本校の子どもたちの姿

よい傾向がみとめられる項目

- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に答えた児童の割合が高いです。
- ・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」「家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか」に対して肯定的に答えた児童の割合が全国に比べて高いです。

課題となる項目

- ・「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか」とした児童の割合が低いです。
- ・「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」とした児童の割合が全国に比べて低いです。
- ・「放課後や週末にスポーツをして過ごす」とした児童の割合が全国に比べて低いです。

## 2 これからの取組について

### ■学校で取り組んでいくこと

- ・「聞く・話す」等の学習規律を整え、児童が集中して、授業に取り組める環境を整えます。
- ・道徳の授業や学年・学校の行事等を通して、自分のことや人との関わりについて考え、自己肯定感やソーシャルスキルを育てます。
- ・朝学習の時間を活用して、算数・国語の問題に取り組み、基礎学力を養います。
- ・「自分の考えや思いを伝え合う活動」を取り入れた授業を展開し、「話す・聞く・考える」力をつけます。
- ・ノート指導を充実し、「理由や根拠を明らかにして自分の考えを書き、発表する」活動をしていきます。
- ・理科の学習では、仮説を設定して実験を行い、結果を整理したうえで考察を行い、考える力をつけさせます。
- ・地域のボランティア活動について、地区懇談会等で話題にしていきます。

### ■家庭において取り組んでいただきたいこと

- ・「家庭学習の手引き」を活用し、児童が自ら学習に取り組めるよう声をかけてあげてください。
- ・ゲームやテレビ、スマホ等のルールを決めて守らせましょう。
- ・親子で様々な本を読んだり、地域の図書館等を利用したりして、児童の興味・関心を広げてあげてください。
- ・地域や社会で起こっている問題や出来事について、家庭で話題にしてください。